

ひばり



令和7年1月10日
府中市立日新小学校
拠点校校長 渡邊 妙子

新しい年になりました。冬休みはどのように過ごしたでしょうか。家族や親戚と過ごしたり、お手伝いをして体を動かしたりと様々な体験ができたことと思います。子供たちから話を聞くのを楽しみにしています。

3学期は学年のまとめとなるとても大切な学期です。成長した自分を感じ、次の学年へチャレンジできるような気持ちをご家庭、在籍学級とともに育てていきたいと思ひます。本年も「ひばり」の指導へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

☆ 3学期の予定 ☆

《指導期間》

1月10日(金)～3月17日(月)

《指導がない日》

水曜通室見 2月12日

木曜通室見 1月30日

《ひばり学習発表会》

日新小 2月26日(水) 3、4時間目

四谷小 2月21日(金) 3、4時間目

※実践グループのみ

基礎グループは行いません。

《学期末保護者面談》

3月10日(月)～3月21日(金)

※10日(月)～17日(月)は午後のみ

※当初の予定から変更があります。最新のひばり便りのご確認をよろしくお願いいたします。

☆ 1月の学習 ☆ 以下の中から児童の実態に合わせた活動を選んで学習します。

	基礎	実践
小集団学習	<p>【発達段階を追った指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者意識 「おみくじトーク」 ・言葉で伝える 「協力福笑い」 「メイキングストーリー」 <p>【即応的指導】 ☆キーワード「協力」</p>	<p>【発達段階を追った指導】【即応的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者意識 「冬休みのスピーチ」 ・ペア・グループで相談・協力 「いろいろリレー」 「パイプライン」 「風船バレー」 ・情報の整理、尋ね方 「私はだれでしょう？」 ・行動や表情への注目、状況に応じた言動 「人狼ゲーム」 ・思いを伝える・相談・折り合い 「学習発表会に向けて」
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた学習

「子どもを理解する ～謎解きのすすめ～」
公認心理士・学校心理士 高下なおみ先生

高下先生のお話を聞き、子どもの行動だけではなく、背景にある要因はどこにあるのかを探っていく「謎解き」が大切だということを学びました。子どもの行動に対して、「どうしたらよいか」の前に「どうして」の視点をもつことが謎解きの始まりです。とはいうものの、その要因は、すぐに見つからなかったり一つではなかったりすると思います。

保護者様と担任、「ひばり」で協力しながら、お子様の困り感がどこにあるのか、一緒に探していきましょう。

謎解きの手がかり

<p>時間軸</p> <p>その行動はいつから始まっている？ その瞬間だけを見て判断するのではなく、時間の経過の中で考えてみましょう。前にも同じことがあって繰り返されているかもしれません</p>	<p>対人関係軸</p> <p>その行動は誰に対しても出る？ 誰に対しても、特定の人に対してだけ…相手によって見える顔が違うのは当たり前ですが、差が大きいとしたり、その人との関係性を考えてみましょう。</p>
<p>空間軸</p> <p>その行動がでる場所は？ どこでも、学校だけ、ひばりだけ、在籍級だけ、家だけ、外出先だけ…もし特定の場所だけならば、他の場所との違いを考えてみましょう。</p>	<p>状況軸</p> <p>その行動が出る前の状況は？ 急な予定の変更があった、気になる一言を言われた、低気圧が近づいている、蒸し暑いなど、さまざまなことが考えられます。</p>

出典：「子どもの心の受け止めから」 川上康則・光村図書

ひばりコラム④ 「学習に向かう土台作り」

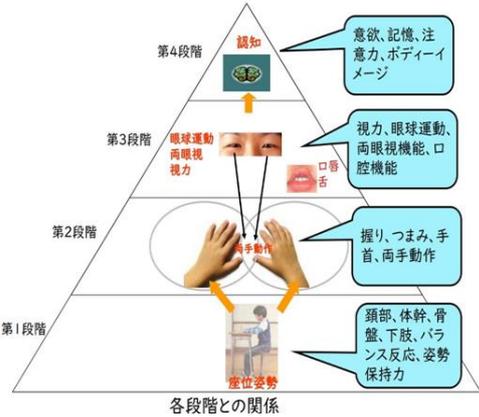
日々の学習や生活での意欲が高まるためには、下図のような、第1段階から順を追って積み重ねた力が必要と考えられています。

(参考：東京都公立学校情緒障害教育研究会資料
神奈川県立保健福祉大学大学院 教授 笹田哲先生の資料より)

右図をご覧ください。一番下の土台となる第1段階は、姿勢を保ったり、バランスをとったりする力です。「ひばり」教室で行っている個別学習時の「体幹トレーニング・バランスボール」のような体全体を使う運動です。ご家庭では、公園遊びなどがお勧めです。

第2段階は、第2段階は、指先や手先の動きの力です。「ひばり」教室では、「折り紙・蝶結び・どんな感じ？」など指先や手先を意図的に使わせる活動を行っています。ご家庭でのお手伝いがよいとされるのは、この段階につながるという理由からなのです。洗濯物干し、野菜の皮むき、混ぜる、こねる、食器洗い等がお勧めです。

第3段階は、目や口をスムーズに動かす力です。「目の体操・話している人への注目・はっきりと話す」などで取り組んでいます。ご家庭では「トランプやカルタ」もお勧めです。



これらの段階が積み重なり、ようやく第4段階の学習への意欲につながります。土台部分がしっかりとできていないのに、上ばかりを積み上げようとしてもうまくいきません。「ひばり」教室では、全てのことの土台は「体作り」からと考え、指導のいろいろな場面で設定するようにしています。

※参考文献 笹田哲 著

- 「気になる子どものできたが増える 体育指導アラカルト」中央法規 2013
- 「気になる子どものできたが増える 書字指導アラカルト」中央法規 2014
- 「気になる子どものできたが増える 食事動作指導アラカルト」中央法規 2022